

<常に最新の防災情報に注意>

- 防災行政無線放送
- 防災行政無線ダイヤル (0120-83-0150)
- 町ホームページ
(<http://www.town.oiso.kanagawa.jp/>)
- 町防災生活情報ツイッター (@bousaioiso)



※フォローの際には、緊急情報をポップアップ形式で受け取れる「twitterアラート」の登録も同時に行いましょう。

○メール配信

10月1日より新システムの運用を開始します。詳細は広報おおいそ10月号でお知らせします。

テレビやラジオでの最新の気象情報に注意し、雨の降り方や河川の水位状況に危険を感じたら早めに自主的に安全な場所に避難するように心掛けましょう。

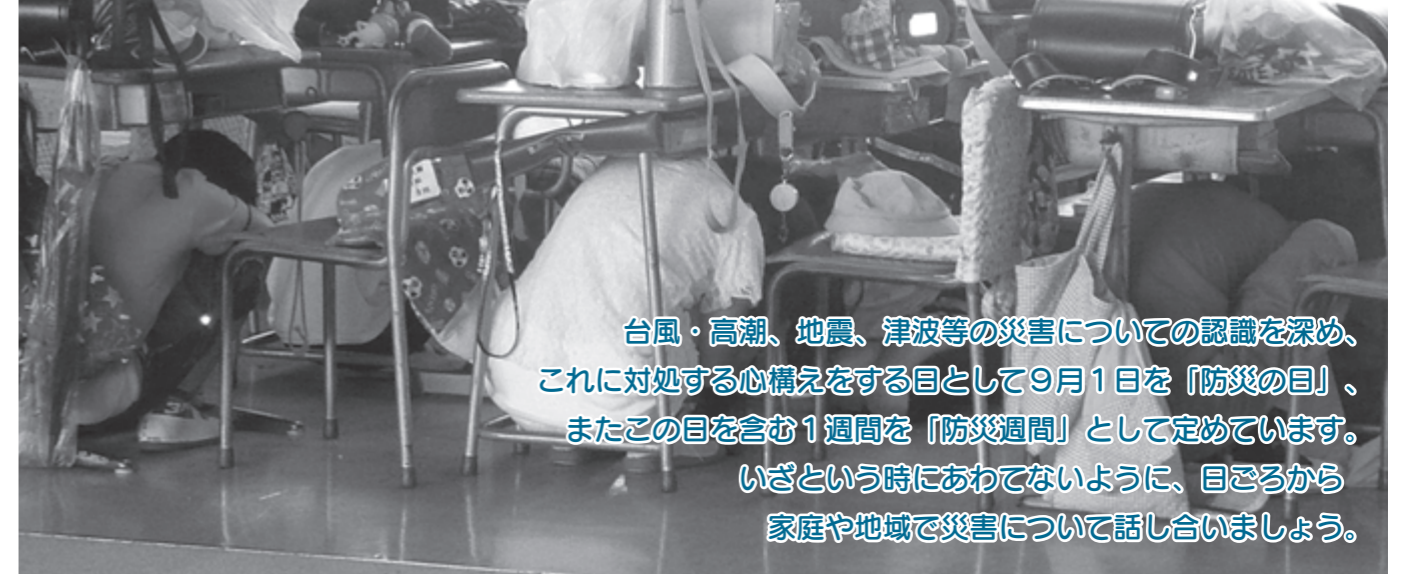


○風水害から身を守る
夏から秋にかけて台風や大雨による災害が多くなります。最近では、短時間に狭い範囲に大雨が降る「局地的大雨」の発生が多くなっています。

晴れていても上流で雨が降ったときは急激に河川の水位が上昇することがあるので注意が必要です。台風や大雨のときに河川や海の様子を見に行くのは危険です。このような天候の際には不要不急の外出を控えることはもちろんですが、これらの災害が過ぎ去った後も、切れた電線への接触、高い波などに注意しましょう。

町から発する防災情報を自主的に積極的に取得しましょう。防災行政無線のほか、町ホームページやメール配信、町防災生活情報ツイッター(@bousaioiso)など、普段からの情報取得に慣れておきましょう。

9月1日は「防災の日」 「防災週間」8月30日(日)~9月5日(土)



台風・高潮、地震、津波等の災害についての認識を深め、これに対処する心構えをする目として9月1日を「防災の日」、またこの日を含む1週間を「防災週間」として定めています。いざという時にあわてないように、目ごろから家庭や地域で災害について話し合しましょう。

問 危機管理課 内線241・244

斜面地や崖、溪流の近くでは、気象情報や注意報のほか、土砂災害の予兆や前兆現象にも注意し早期避難に備えましょう。また、夜間に大雨が予想される場合は、暗くなる前に避難しましょう。もし、避難のための外出が危険な場合は、自宅のなかで崖から一番遠く高い部屋に避難する「垂直避難」という方法も覚えておきましょう。

神奈川県調査により、特に土砂災害発生のおそれがある場所として「土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域」が指定されています。自宅や普段から居ることの多い場所の危険性をあらかじめ知り、いざという時の早期避難に備えましょう。

【神奈川県HP 土砂災害情報ポータル】
<http://dosyasaigai.pref.kanagawa.jp/website/kanagawa/gis/index.html>
平塚土木事務所、町役場でも資料の閲覧ができます。

○土砂災害から身を守る
大雨などにより土砂災害の危険度が特に高まったときには「土砂災害警戒情報」が発表されます。この情報はテレビ・ラジオなどの速報やインターネット、町からの情報などで入手できます。早期避難ができるよう、入手方法を確認しておきましょう。

津波浸水シミュレーション説明会を開催
平成27年3月に神奈川県から津波浸水想定が発表されたことに伴い、町では平成27年5月に津波浸水想定を記載した印刷物を全戸配布しました。このたび、新たな津波浸水想定では時間ごとどのように入水していくのか、東海大学の協力で、シミュレーションを作成しました。津波から命を守るためにはどのような避難したらよいか、皆さんと一緒に考える説明会を開催します。

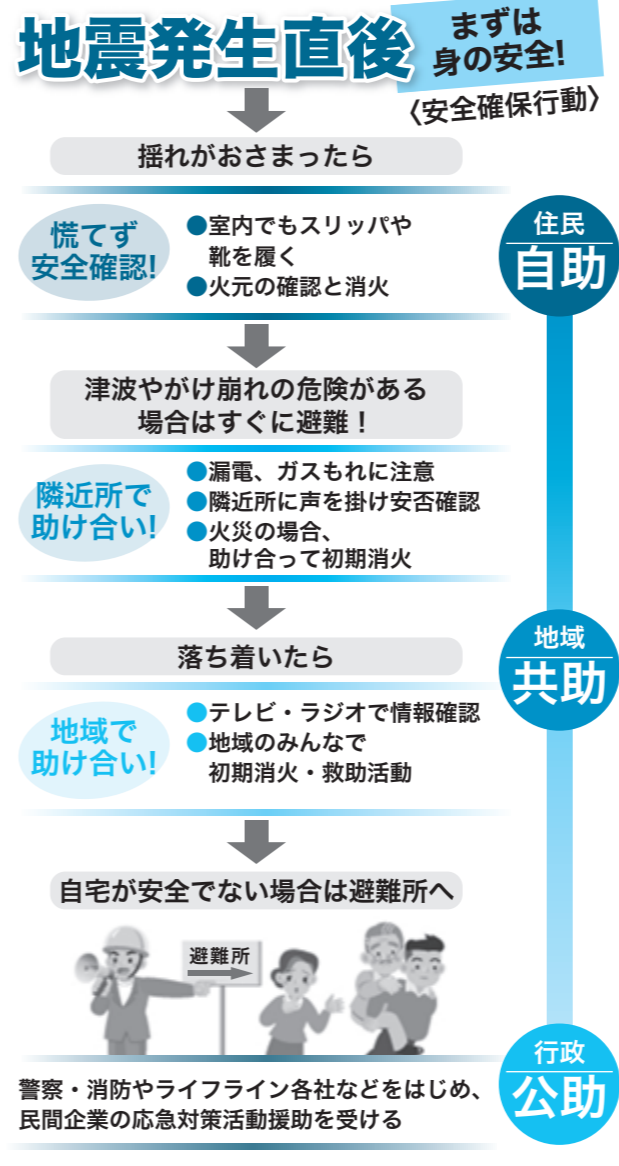
とき 9月26日(土)
14時30分 開場
15時00分 開演 予定
ところ 保健センター研修室
講師 山本 吉道 氏
(東海大学工学部土木工学科教授)
梶田 佳孝 氏
(東海大学工学部土木工学科准教授)

参加費 無料

※荒天等により中止の場合は、町ホームページでお知らせします。

- 普段から備えよう
いざというときに慌てないよう、あらかじめ家族や身近な人と、災害にどう備えるべきか具体的に話し合ひましょう。
- ①役割分担を決めよう
非常持ち出し品を持ち出す係、子どもや高齢者に付き添う係、ペットを連れ出す係 など
 - ②家の危険箇所をチェック
耐震補強を確認する、家具の転倒防止のために固定する、重いものを下に置く など
 - ③防災用品はすぐ取れる場所にヘルメット、救急箱、非常持ち出し品、消火器 など
 - ④非常持ち出し品を確認しよう
「被災に備えて普段の外出時

- ⑤緊急時の連絡方法を決めよう
避難場所など家族が落ち合う場所を決めておく。災害用伝言ダイヤル「171」の利用
 - ⑥避難場所や避難経路を確認
危険箇所がないかを確認しながら実際に歩いてみましょう。
- から携帯するもの、「被災したときにまず持ち出すもの」、「ライフラインが止まったり避難生活が長引く場合に備えて5日分をめぐに備蓄しておくもの」など、用途別に用意しておきましょう。
- また、高齢者や乳幼児、女性など、各家庭によって必要となるものを用意しておくのも大切です。



災害が発生した時は、町や消防などの関係機関が被害の拡大防止や負傷者の救助「公助」にあたりますが、対応には限界があります。自分の身を自分の努力によって守る「自助」や、地域や、近隣の人が集まり、互いに協力しながら防災活動を行う「共助」の取組みが重要になります。

災害に備えるため、普段から地域や隣近所で避難や地域の安否確認方法等について話し合い、情報を共有しましょう。また、地域で行う防災訓練や行事等には積極的に参加し、お互いの顔が見える交流を図ることが、いざというときの大きな力になります。

○地震や津波から身を守る
災害時には「自助」「共助」「公助」が円滑に機能することにより、被害の軽減を図ることができます。

災害時には、まず、自分の身を守る行動が必要です。地震の揺れを感じたら、身を守る安全確保行動を行います。

また、津波やがけ崩れの危険がある場合は安全確保行動を行った後、すぐに避難!防災行政無線や緊急速報メール(エリアメール)に注意し、直ちに判断し主体的な避難を心掛けましよう。

地震発生!まずは身の安全!
▼安全確保行動

①DROP! : まずひくく
②COVER! : あたまをまもり
③HOLD ON! : うごかない

津波やがけ崩れの恐れがない場合や安全な場所にいる場合は、隣近所で助け合って初期消火や安否確認をします。普段から消火器はすぐ手に取りやすい場所に設置しておき、また、安否確認の方法は地区の役員さんなどに確認しておきましょう。